

介護付有料老人ホーム

The 門 mondo 戸



介護付 西宮市内で社会福祉法人が開設する「特定施設入居者生活介護」指定第1号

『朝日のあたる家』～全室南向き・東向き～



厳選素材のお食事

日本の食文化を大切に四季折々のメニューをお楽しみいただけるよう、法人直営のセントラルキッチンで調理を行っております。医師からの食事制限のある方には、それに合わせた治療食・食事形態で、ご提供いたします。

徹底した医療・介護体制

ご希望により在宅療養支援診療所の医師との医療体制で、365日24時間オンコールでの対応が可能です。また、特養「甲南山手」などのグループ施設との連携により看護・介護のプロフェッショナルがサポートいたします。

サービス

費用

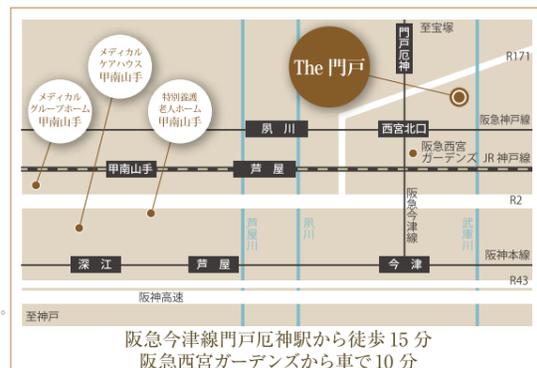
介護保険自己負担額(30日)

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
6,198円	14,324円	17,707円	19,857円	22,134円	24,284円	26,498円

サービス利用料金

居住費	食費	共益費	介護費	合計
250,000円	60,000円	60,000円	20,000円	390,000円

※入居時に保証金として30万円必要になります。
※水・光熱費は共益費に含まれます。
※医療費は別途実費を徴収します。
※オムツ代は別途実費を徴収します。
※その他の費用：理美容代・嗜好品等。



施設概要

●所在地：〒663-8016 兵庫県西宮市若山町8-17 ●サービス内容：介護付有料老人ホーム ●開設年月：平成25年12月 ●構造：鉄筋コンクリート造5階建 ●敷地面積：1580.92㎡ ●延床面積：3067.52㎡ ●総戸数：58戸(介護居室) ●居室面積：21.6㎡ ●設備：洗面、トイレ、クローゼット、エアコン、ベッド、(一部)キッチン、(一部)ユニットバス ●併設：居宅介護支援事業所、デイサービスセンター ●居住の契約形態：利用権方式 ●登録番号：第011001号 ●生活支援サービス：状況把握、生活相談、健康管理 ●保証金：30万円 ●居住費：250,000円/月 ●共益費：60,000円/月 ●食費：60,000円/月 ●介護費：20,000円/月 ●今回募集戸数：58戸 ●特定施設入居者生活介護事業者の指定あり ●サービス付き高齢者向け住宅登録済み

お申込み・お問合せ・資料請求

入居相談センター (担当：今西)
受付時間 9:00～18:00(土・日・祝含む)

0120-658-793

www.chikusakai.jp

または TEL.078-441-0001 (特別養護老人ホーム甲南山手内)

CHIKUSAKAI GROUP 社会福祉法人千種会グループは神戸市東灘区を中心に特別養護老人ホーム、デイサービスセンターなどを展開しています。

兵庫医科大学病院 支援部門紹介 臨床工学室

●主な業務

血液浄化業務

血液浄化センターをはじめ、ICU・EICUなどでさまざまな血液浄化治療を行っています。

集中治療業務

救急初療室・EICU・ICU・NICUにて、生命維持管理装置の操作や、医療機器の保守点検を行います。

人工呼吸器関連業務

人工呼吸器の点検や人工呼吸器装着患者さんの搬送立会い、呼吸ケアチーム(RST)への参加により、呼吸療法の安全性向上に努めています。

手術センター業務

人工心肺装置、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」、その他手術で使用される医療機器の操作、保守管理を行います。

内視鏡センター業務

内視鏡を使った検査・治療を、安全・円滑に進められるよう努めています。

IVRセンター業務

PCI(冠動脈形成術)・CAG(冠動脈造影)・不整脈アブレーションなどの補助を行っています。

血液採取業務

血液採取装置の操作により造血幹細胞などの採取を行っています。

臨床工学室では、今日の医療現場には欠かせない、血液浄化装置、人工心肺装置、人工呼吸器などのさまざまな医療機器の操作を行うとともに、それらの機器を安全で効率的に運用するため、保守管理や医師・看護師などの医療従事者に対する教育などを行っています。

ペースメーカー関連業務

心臓ペースメーカー植込み手術の際の作動チェックや、心臓ペースメーカー植込み患者さんの手術立会い、外来での定期的なチェックを行います。

医療機器管理業務

医療機器の中央管理体制を整え、安全性の高い効率的な運用を行っています。



医療機器を安全かつ効率的に運用するために



臨床工学室
きむら まさよし
木村 政義 主任技士

臨床工学室の仕事は、一般病棟やICUをはじめ、手術センター、血液浄化センターなどさまざまな場所で医師の指示のもと医療機器の操作を行うとともに、それらの医療機器の保守管理を行うことです。院内で使用している医療機器を安全かつ効率的に運用できるよう、臨床工学室で中央管理を行い、終業点検や定期点検、時には修理を行うこともあります。現在、17名の臨床工学技士が24時間態勢で、万一の医療機器のトラブルや救命救急センターなどでの急性期の緊急処置にも迅速に対応しています。

医療機器の高度化や、内視鏡やIVRなど検査・治療の多様化により、臨床工学技士に求められることは増えています。専門知識や技術レベルの向上のため、各種学会が認定する資格を取得したり医療機器メーカーの講習会などに参加したりして、個々のスキルアップをはかると同時に、院内で勉強会を開催するなどして、医療機器を安全に使用できる環境づくりを積極的に進めています。

一方で、ベッドサイドで患者さんと接する機会も多く、医師や看護師と患者さんをつなぎチーム医療を円滑に進める役割を担うこともあります。今後は、医療機器に関して患者さんにより安心感を持っていただくことを意識するとともに、地域医療の発展にも貢献できればと考えています。